

2017年1月31日 全5頁

Indicators Update

12月鉱工業生産

前月比+0.5%と増産を維持

エコノミック・インテリジェンス・チーム
エコノミスト 前田 和馬
エコノミスト 小林 俊介

[要約]

- 12月の生産指数は前月比+0.5%と2ヶ月連続で上昇し、市場コンセンサス(同+0.3%)を上回った。一方、12月の出荷指数は同▲0.3%と4ヶ月ぶりの低下、在庫指数は同+0.2%と4ヶ月ぶりの上昇、在庫率指数は同+0.9%と3ヶ月ぶりの上昇となった。生産が増加した一方で、出荷が減少し在庫が増加する結果となったが、均してみれば、生産と出荷が増加基調であることに加えて、在庫水準も低下基調にあることは、今後の明るい材料といえよう。
- 製造工業生産予測調査によると、2017年1月、2月の生産指数は前月比+3.0%、同+0.8%と増産が続く計画となった。また、経済産業省が公表した先行き試算値についても、1月は同+0.5%の増加となっている。
- 2017年3月以降に関しては、生産は緩やかな拡大を見込んでいる。耐久消費財については、家電エコポイント導入時に購入された白物家電等が買い替えサイクルを迎えていることに加えて、消費増税前の駆け込み等による需要先食いの悪影響が剥落しつつあることから、今後は底堅く推移することが見込まれる。また、外需についても、家計部門を中心に底堅い米国経済をはじめとして、海外経済の回復が続いていくと考えられることから、緩やかに輸出は持ち直すであろう。

図表1：鉱工業生産の概況（季節調整済み前月比、%）

	2016年										
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
鉱工業生産	+3.8	+0.5	▲2.6	+2.3	▲0.4	+1.3	+0.6	+0.0	+1.5	+0.5	
コンセンサス										+0.3	
DIR予想										+0.5	
出荷	+1.8	+1.6	▲2.6	+1.7	+0.7	▲1.1	+1.8	+2.0	+1.0	▲0.3	
在庫	+2.9	▲1.7	+0.4	+0.0	▲2.4	+0.3	▲0.5	▲2.1	▲1.6	+0.2	
在庫率	+3.3	▲2.2	+1.8	▲1.5	+1.1	▲3.2	+1.1	▲0.6	▲5.6	+0.9	

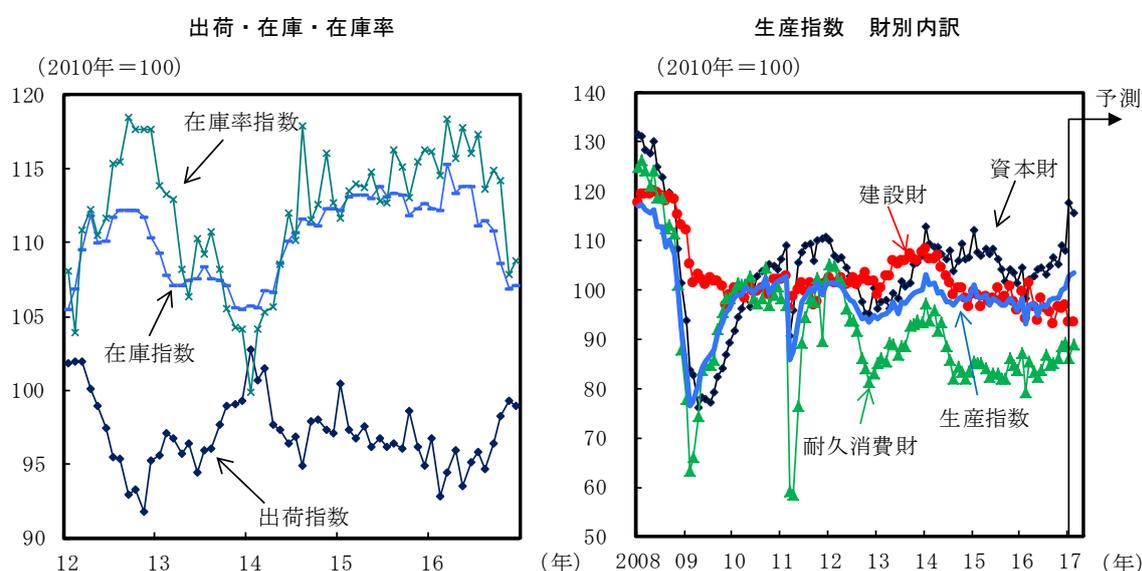
(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

生産は前月比+0.5%と増産を維持

12月の生産指数は前月比+0.5%と2ヶ月連続で上昇し、市場コンセンサス(同+0.3%)を上回った。一方、12月の出荷指数は同▲0.3%と4ヶ月ぶりの低下、在庫指数は同+0.2%と4ヶ月ぶりの上昇、在庫率指数は同+0.9%と3ヶ月ぶりの上昇となった。生産予測調査で見ると、2017年1月：同+3.0%、2月：同+0.8%と、増産が続く計画となっている。生産が増加した一方で、出荷が減少し在庫が増加する結果となったが、均してみれば、生産と出荷が増加基調であることに加えて、在庫水準も低下基調にあることは、今後の明るい材料といえよう。

図表2：出荷・在庫・在庫率、生産指数財別内訳



(注) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

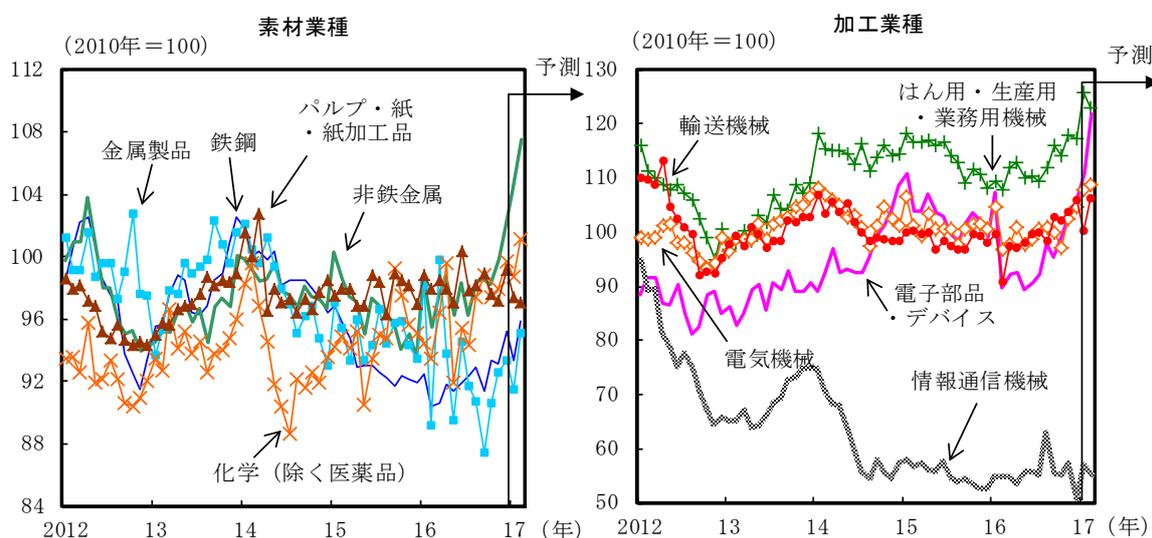
全15業種中、12業種が上昇

12月の生産指数を業種別に見ると、全15業種中、12業種が上昇した。なかでも、輸送機械工業(前月比+2.0%)、化学工業(除.医薬品)(同+1.8%)の寄与度が大きい。輸送機械工業については、軽乗用車と自動車部品の増加が目立つ。また、米国向けの多目的スポーツ車(SUV)や国内における新車の販売が好調なことを背景に、普通乗用車も前月比でプラスとなっている。化学工業(除.医薬品)については、美容液や合成洗剤が全体を押し上げた。一方、生産指数が低下した業種は、情報通信機械工業(同▲10.7%)、はん用・生産用・業務用機械工業(同▲0.4%)の2業種であった。情報通信機械工業については固定通信装置や外部記憶装置、はん用・生産用・業務用機械工業については一般用蒸気タービンや分析機器がそれぞれ全体を押し下げた。他方、その他工業については前月比横ばいであった。

生産計画は引き続き強い

製造工業生産予測調査によると、2017年1月、2月の生産指数は前月比+3.0%、同+0.8%と増産が続く計画となった。また、経済産業省が公表した先行き試算値についても、1月は同+0.5%の増加となっている。予測調査を業種別に見ると、電子部品・デバイス工業（1月：同+5.1%、2月：同+10.0%）の計画が強い。同業種では計画時点から生産が下振れする傾向が強いため、数値は若干割り引いて見る必要があるものの、引き続き鉱工業生産全体のけん引役となることが期待される。また、今月減少となった情報通信機械工業（1月：同+11.8%、2月：同▲3.4%）、はん用・生産用・業務用機械工業（1月：同+7.2%、2月：同▲2.4%）の計画については、1月は増産であるものの、2月には減産を見込む計画となっている。なお、これらの業種でも計画時点から生産が下振れする傾向が強いため、先行きを注視する必要がある。

図表3：主要業種の生産推移

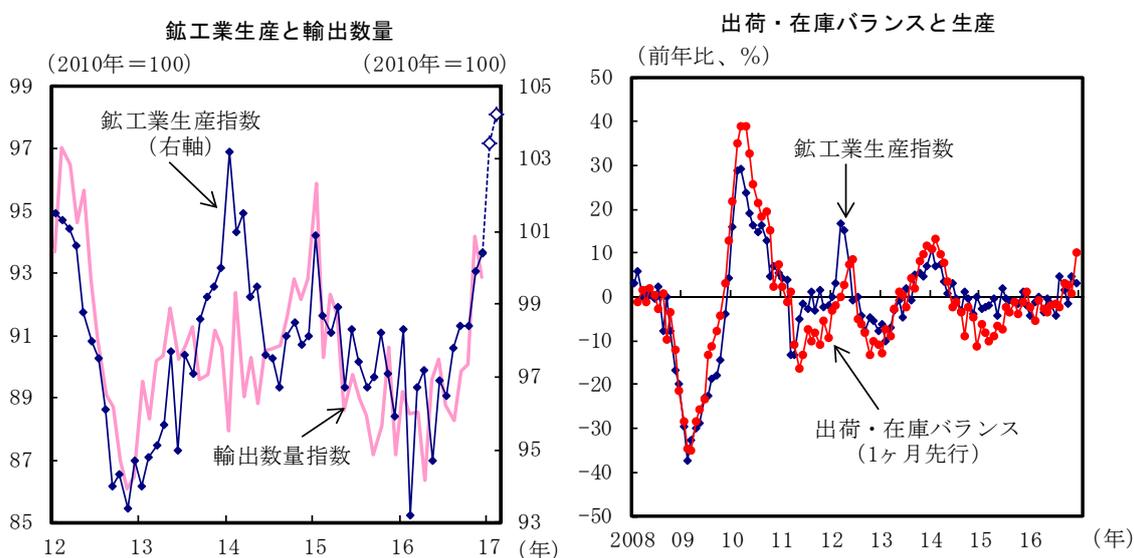


(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
 (出所) 経済産業省統計より大和総研作成

先行きは緩やかな拡大を見込む

2017年3月以降に関しては、生産は緩やかな拡大を見込んでいる。耐久消費財については、家電エコポイント導入時に購入された白物家電等が買い替えサイクルを迎えていることに加えて、消費増税前の駆け込み等による需要先食いの悪影響が剥落しつつあることから、今後は底堅く推移することが見込まれる。また、外需についても、家計部門を中心に底堅い米国経済をはじめとして、海外経済の回復が続いていくと考えられることから、緩やかに輸出は持ち直すであろう。一方、ダウンサイドリスクとして、米トランプ新政権による保護主義政策や英国のEU離脱等により、世界経済の先行き不透明感が強まる可能性が挙げられる。このことは、外需の成長や設備投資の本格的な回復に対する障害となろう。

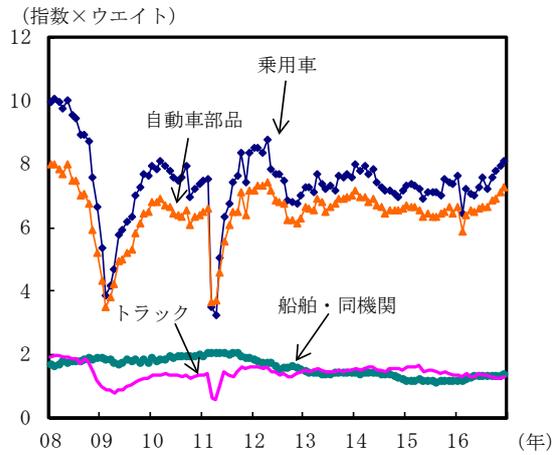
図表4：輸出数量、出荷・在庫バランスと生産



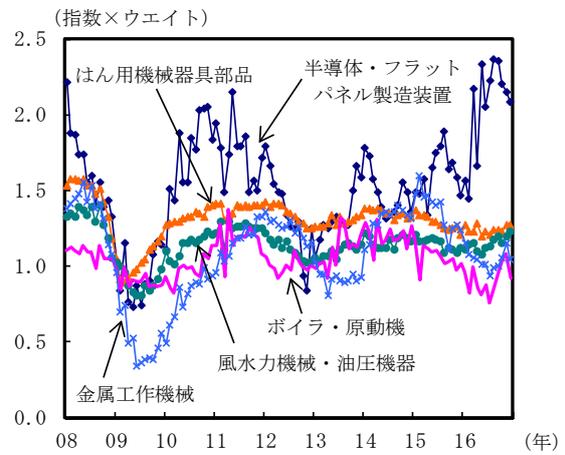
(注) 鋁工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

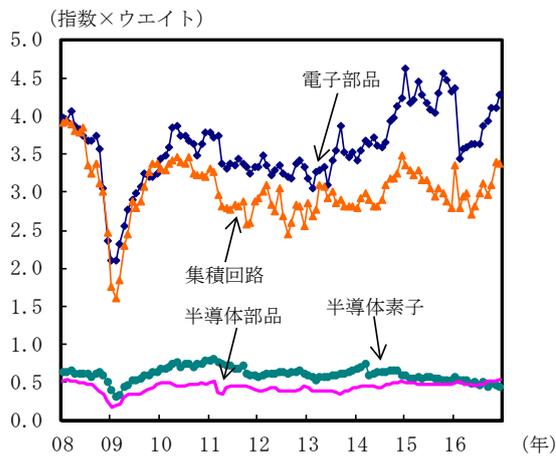
輸送機械



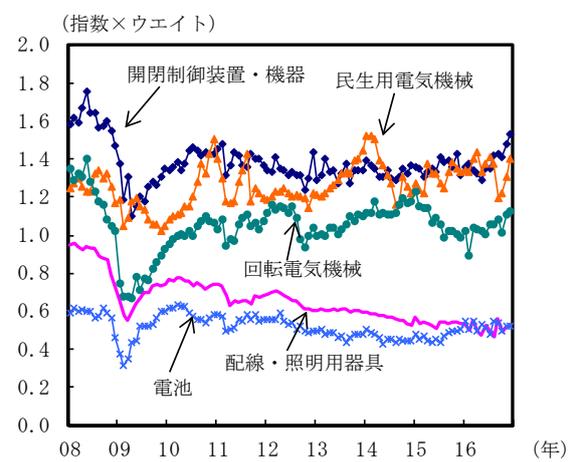
はん用・生産用・業務用機械



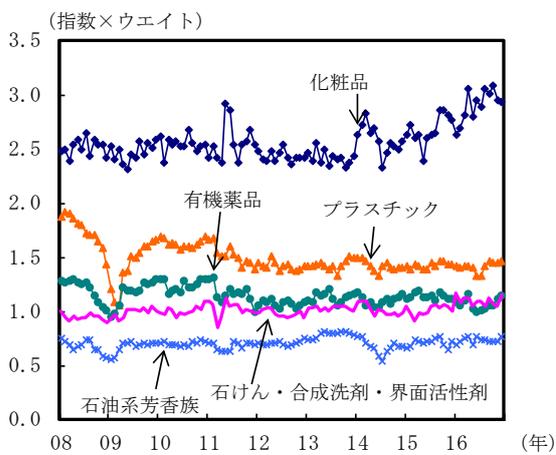
電子部品・デバイス



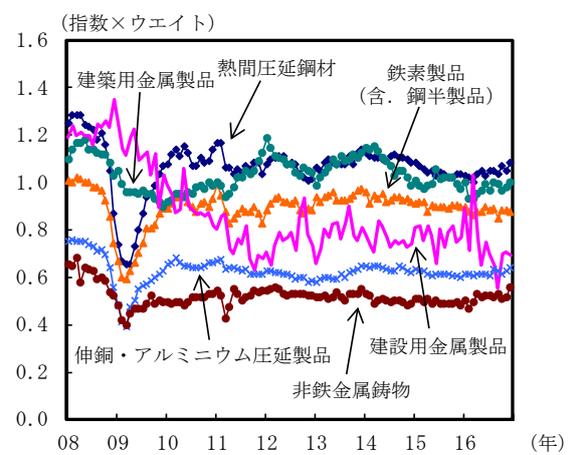
電気機械



化学



鉄鋼・非鉄金属・金属製品



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成